

【令和6年度 和泉市ジェンダー平等教育推進モデル校 取組み報告】

研究主題：

ジェンダー平等教育の推進と性的マイノリティの子どもへの対応について

和泉市立南松尾はつが野学園

以下の教材を活用し、子どもたちとジェンダー平等についての学びを行った。

1年生『 すきないろでいっぱい 』 人権教材資料集・CD

2年生『 雨の日のものがたり 』 人権教材資料集・CD

3年生『 すきないろでいっぱい 』 人権教材資料集・CD

4年生『 じゅん子のなかま 』 人権教材資料集・CD

5年生『 好きなこといろいろ 』 人権教材資料集・CD

6年生『 ノーベル賞の受賞者は、どうして男性が多いの？ 』

総務省 統計局 HP「なるほど統計学園」

7年生『 ありのままの自分で生きる 』 人権教材資料集・CD

8年生『 タンタンタンゴはパパふたり 』 絵本

9年生『 ありのままの自分で生きる 』 人権教材資料集・CD

『 レインボーな僕～高校生のカミングアウト 』2023年5月28日放送分

1年生『 すきないろでいっぱいに 』

【授業の流れ】

導 入：①「好きな○○」とお題を決めて、自分の一番好きなものについて交流する。

②好きなものはそれぞれであることに気づかせる。

展 開：①ワークシートの男の子の帽子に色を塗る。

②色を塗ったものを黒板に掲示する。

③ワークシートの女の子の水筒に色を塗る。

④色を塗ったものを黒板に掲示する。

⑤黒板を見て気が付いたことをプリントに書く。

⑥意見交流をする。

⑦「男の子だから」「女の子だから」といった固定観念はあるが、自分の好きな色をえらんでよいということを押さえる。

まとめ：①授業で思ったことをプリントに記入する。

②自分の好きな色でワークシートのふでばこを塗る。 →プリントに貼る。

【子どもの反応・感想】

男の子の帽子は黒っぽい色で塗った児童、逆に女の子の水筒は明るい色を選ぶ児童が一定数いた。しかし、何色が好きでもいい、自分が好きならその色でいい、という意見がたくさん出た。

【成果と課題】

色によって性別を判断することはよくない、好きな色は自由だ、と改めて気が付くことができた。身近な「帽子」などから色について考えたが、色だけでなく、髪型や服装についても同じだという意見も出てきた。自分らしさや、自分と相手の違いにも目を向けることができたように思う。

2年生『 雨の日のものがたり 』

【授業の流れ】

①「女のかさ」とはどのようなものなのか考える。

②「花がらのかさは女の人よう」についてどう思うのか自分の意見を書く。

③「のぶおさん」のような経験はあるか、これまでの自分をふり返る。

【子どもの反応・感想】

「女の人用」とかはないはずだが、知らないうちに女の子用だと考えてしまっていたといった考えの児童が何人もいた。しかし、何色が好きでもいい、性別は関係ないという意見がたくさん出た。

【成果と課題】

色によって性別を判断することは良くないということや、自分の好きを大切にすることの良さについて改めて考えることができた。色というテーマを通して自分と相手の違いを大切にしていこうという気持ちを持つことができたように思う。

3年生『 すきないろでいっぱい 』

【授業の流れ】

- ①本文を範読
- ②「わたしのすいとう」「ぼくのTシャツ」から持つイメージで、Tシャツのイラストに色を付けたり、柄を描いたりする。その後、全体交流。
- ③ぼく・わたしから持つイメージについて交流。
- ④自分の好きな色で、筆箱のイラストに色を塗ったり、柄を描いたりする。

【子どもの反応・感想】

はじめは「ぼく」「わたし」から持つイメージが偏っており、「わたしと言っているから女の子」という意見も挙がった。また子どもたちは、普段の生活の中で、ピンク色の持ち物が落ちていたら女の子に声をかける姿もあった。

しかし振り返りの中で、「だれがどの色を好きでもよい」「女の子、男の子は関係ない」といった意見が挙がった。また、少し話が広がっていく中で、制服の話になった際、「女の子がズボンをはいてもいいよね」といった声も挙がった。

【成果と課題】

男女による固定観念を気づかぬうちに持っていたが、性別は関係ないことや、人それぞれ違うことの良さを考えることができた。この実践を踏まえて、普段の子どもの声掛けのなかで、「この水筒はピンク色やけど、どっちの物かわからないね」などの声も挙がった。子どもたちが自然と抱えている固定概念を変えるために、少しずつ日々指導していきたい。

4年生『 じゅん子のなかま 』

【授業の流れ】

- ①「男らしさ」「女らしさ」について考える。
- ②『じゅん子のなかま』を読み、じゅん子がどんな子かを確認める。
- ③お母さんや男の子に「男の子みたいに…」や「女のくせに…」と言われた時の気持ちを考える。
- ④エミの最後のセリフにつけ足して、自分なら何と言ってあげるかを考える。
- ⑤ペア探しゲームをする

【子どもの反応・感想】

ジェンダーに関する学習を数回した後ということもあって、「男らしさ」や「女らしさ」を考える時点から「男の子でも・・・女の子でも・・・」という声が聞こえた。しかし、「男らしい」「女らしい」を発表させるとたくさんの意見で黒板がいっぱいになった。自分たちの無意識の中にも思い込みや固定観念がたくさんあることに気づき驚いていた。その後、じゅん子がお母さんや友だちに言われた言葉でどんな気持ちになったのかを考えると「男や女なんて関係ないのに腹が立ったと思う」「勝手に『らしさ』を決めつけられて嫌な気持ちになったと思う」などという意見がたくさん出てきた。そして、そんな気持ちのじゅん子に対してどのような声掛けをするのかを考える活動ではほ

とんどの児童が「自分らしくあればいい」「気にしなくていい」「一緒に遊ぼう」などという意見だった。最後のペア探しゲームも男女関係なく全員が仲良く楽しくできていた。授業後には「通っている歯科医院では男の人が青いエプロンで女の人がピンクのエプロンをつけている」や「知り合いに女性が着るような服装をしている男の人がいる」などを言いに来た児童もいた。

【成果と課題】

他人が決めつけている「らしさ」は気にせず、「自分らしさ」が大切だということに気づいた児童もいたように感じる。ただ、それを自分の行動や言動に活かしているかは疑問な部分もある。授業後に「男なのに〇〇するん？」などの発言をしてしまう児童もいた。しかし、その発言に関して「別にいいんじゃない？」と言える児童も多くいた。そのことが今回の授業の成果と言えるように思う。今後も自分らしさを表現できることが大切であり、表現しても受け入れられる雰囲気を作っていくのが「学年なかま」である。そして、それこそが楽しい学級・学校づくりであるということを伝えていきたい。

5年生『好きなこといろいろ』

【授業の流れ】

- ①「男の子っぽい」「女の子っぽい」について考える。
- ②全体で共有する。
- ③全体の意見を共有したことを踏まえ、改めて「男の子っぽい」「女の子っぽい」について考える。
- ④本教材のWSを行う。
- ⑤ふりかえりを行う。

【子どもの反応・感想】

「男の子っぽい」「女の子っぽい」を真剣に考える児童の姿がたくさんあった。学習を進めていく中で、それぞれの発表から「別にその人が良いんやったら良いんじゃない？」や、「好きなものって人それぞれやと思う。」など、こちらの想定を超えた発言があり、それを肯定する声が多数あがった。児童の中には、「男の子がスカートを履いているのを見ると、『えっ！！』と思うけど、見慣れていないだけで、見慣れてくると男の子のスカートも気にならなくなると思う。」などの意見もあった。児童の中で、人権感覚が養われてきているように感じた。

【成果と課題】

「比べる」というところに視点を置いている児童もいた。それを見て我々教職員も児童が互いを比較しながら学校生活を送っているのだと考え直した。児童それぞれ、自己がまだまだ確立できていない。それが故に、自身の居場所や地位を見出そうとするために、他者を下に見てしまう児童もいる。そんな児童の背景を想像しながら、日々の指導にあたっていきたい。

6年生『 ノーベル賞の授賞者は、どうして男性が多いの? 』

【授業の流れ】

- ①現代の社会において、性別を意識する場面を考える。
- ②ノーベル賞の受賞者に女性が少ない理由を考える。
- ③研究者に占める女性割合の国際比較、女性研究者が少ない理由の資料から考えることをまとめる。
- ④ふりかえりをする。

【子どもの反応・感想】

性別を意識する場面を考える中で、身体的なことや、社会的なことについて多くの話題が上がった。「レディースデイについてどう思う。」と問いかけると、「差別だ。」という意見と「それは別にいいのではないか。」という意見に分かれた。人によってとらえ方は様々だが、ひとつのことに対して色々な意見を持つ人がいるということを理解した。

児童の中には、現在父親が育児休暇を取っている者がいたため、育児休暇について調べた。海外の育児休暇の取得率と比べた際に、日本の取得率の低さに驚いていた。日本のジェンダーに対する認識の低さに対して疑問を抱く児童が多くいた。

【成果と課題】

ふりかえりの中で「ジェンダーについて考え、性別による決めつけは良くないということに気が付くことができた。」といった内容のものが多く見られた。

しかし、各国で行われているジェンダー平等の活動を紹介したところ、「えー。そんなの無理。」「考えられない。」といった声も聞こえた。ジェンダーについて考え、理解をしたようには見えるが、まだまだ浸透しきっていないように感じる。

7年生『 ありのままの自分で生きる 』

【授業の流れ】

導 入：こうぶんこうぞうさんについて知る。トランスジェンダーであることを公表した画家。YouTubeなどで自らの経験や思いを発信していることを伝える。

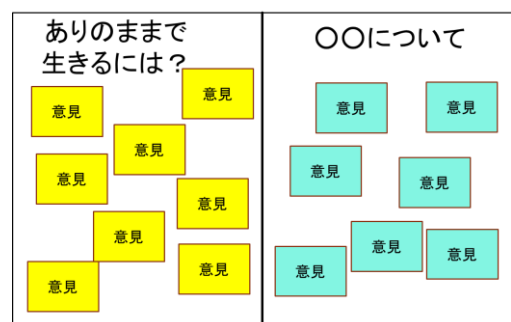
展 開：「ありのままの自分で生きる」を読む。

→ 班で模造紙作成。

①ありのままの自分で生きることにについて大切だと考えることをふせんに書き出していく。

②①で出した意見でより深めたいことをテーマに更に別の色のふせんに書き出していき、思考を深めていく。

まとめ：LGBTQの人たちの活動を支持し、支援している人たちである ALLY を紹介し、さまざまな支援・理解について考えて、オープンエンドで終える。



【子どもの反応・感想】

学年として2学期当初から LGBTQ を中心としたジェンダー平等教育に取り組んでおり、生徒たちは一定の理解を示し、真剣にこうぶんこうぞうさんの言葉に耳を傾け、模造紙作成にも意欲的に取り組むようすが見てとれた。ありのままの自分で生きるために、自分自身のことについては「自信を持つ」「自分とは変ではなく、どんな自分も当たり前」「きちんと伝える」などの考え方が大切であるとの意見が出た。また、相手との関わりについては「相手を否定しない」「肯定する」「自分の固い考えを変える」などの意見が出た。最も多かったのは「相手を尊重する」ということであつたが、そのために大切なことは「話をよく聞く」「傷つけない言葉づかい（ふわふわふことば）」と考えを深めていた。

【成果と課題】

4月当初、相手をいじったり、煽ったりするような言葉が多く見られたが、ジェンダー平等教育を中心とした人権教育を2学期間にかけて行った結果、そうした「いじり」「煽り」などの言動は徐々に減少していった。また、そういった言動が見られたときに、周囲から真剣に「それはあかん言い方や。」と友だちを諭す様子も見られ、ジェンダー平等に関する意識は醸成できてきたと考えている。「相手がどう捉えるか」という意識がまだ弱いせいか、会話もしくはSNSでのトラブルが依然として無くなっておらず、人権を大切にするための取り組みは継続していく必要がある。

8年生『 タンタンタンゴはパパふたり 』

【授業の流れ】

導 入：「3人家族のうち、子どもはひとりだけ」という情報を与え、子ども以外の2人がどんな人物になるのか考える。

展 開：①あらゆる集団のイラストが入った紙を配る。→個人で家族と思う集団を選ぶ。

②①で考えたことを班で共有し、なぜ家族だと思うのかという理由も考える。

③②で共有したことをクラス全体に発表する。

④『タンタンタンゴはパパふたり』を読み、家族の在り方についてさらに考える。

まとめ：今まで自分が考える「家族」と、授業内で認識した「家族」について考える。

【子どもの反応・感想】

あらゆる集団のイラストを見て家族と思う集団を選ぶ活動のときには子ども以外の大人が女性、男性であることが条件と考える生徒が多くいた。しかし、『タンタンタンゴはパパふたり』を読むと、「子育てするのが母親である必要はない。」と認識する生徒が増えた。例えば、「家族は血がつながっているのが重要だと思っていたけれど、その人が幸せで楽しいのなら家族だと思う。」「家族に大切なことは全員が愛し合っていることだと思う。」とふりかえり家族の定義を自分なりに再認識する姿が見られた。

【成果と課題】

ジェンダー平等教育を行っていくうえで「男はこうあるべきだ。」「女はこうあるべきだ。」という考え方をほぐすことができていると感じる。「男なんやから泣くな。」という言葉が飛び交ったときに、周囲から「その言い方は良くない。」と友人に伝えることができる。しかし、LGBTQの方々に対して、まだ理解が追いついていないと思われる生徒もいる。そのため、すべての人の人権を大切にするためにはどのようにしたら良いのか考えられるよう取り組みを続ける必要がある。

9年生『 ありのままの自分で生きる 』

【授業の流れ】

生まれたての赤ちゃんの顔を見て性別は判断できないことやランドセルの色が時代と共に変化していることを挙げ、性別やそれに伴う意識がどのように作られてきたかを考える。LGBTQの説明をして男性と女性だけでないこと、またみんなにとって住みやすい社会とはどのようなものかを考えさせる。

教材：「ありのままの自分で生きる」「レインボーな僕」（動画）

【子どもの反応・感想】

- ・多様性を受け入れることで救われる人はたくさんいるから自分も多様性を受け入れて生きにくいと感じている人を少しでも減らしたいと感じました。
- ・性に悩んでいる人は自分から言いにくいので、みんなに認めてもらえると安心できるとわかった。
- ・自分が思っていたよりもLGBTQについて悩んでいる人が多いと思った。

【成果と課題】

LGBTQへの理解は進んだが、まだまだ自分事になっていない様子がみてとれる。今後の課題としては、人と違って認め合える社会をめざすという意識まで持っていきたい。